



川や海を みんな きれいに!

みんなのできる川にやさしい
暮らしのマナー



徳島市

このパンフレットについてのお問い合わせ 徳島市環境保全課 ☎088-621-5213

正しく使おう「浄化槽」

浄化槽は、下水道が整備されていない地域の住宅などに設置されている、微生物の働きを利用して、暮らしの中の汚れた水をきれいにする装置です。間違った使い方や維持管理を適切に行わないと、放流水の水質が悪化したり、悪臭が発生することがあります。



① 保守点検

稼働状況の確認、機器の調整、消毒薬の補充など。県知事の登録を受けた業者に委託しましょう。

② 清掃

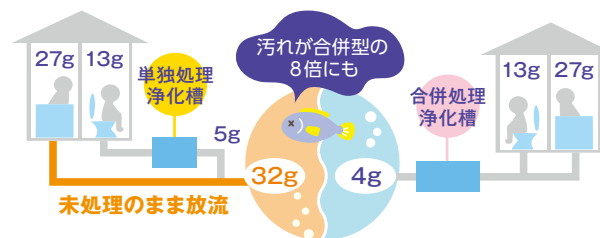
浄化槽内で発生した汚泥などの引き抜きや洗浄。市長の許可を受けた業者に委託しましょう。

③ 法定検査

①②が適正に実施されているか確認する検査。県内では公益社団法人徳島県環境技術センターが指定検査機関です。

単独処理浄化槽を使用している方へ

トイレの排水だけを処理する「単独処理浄化槽」は、その他の生活雑排水も併せてきれいにする「合併処理浄化槽」に比べ、汚れの排出量が8倍にもなり、川や海を汚す原因になっています。衛生的な環境のためにも、合併処理浄化槽への切り替えを検討しましょう。



川や海へ流れ出る汚れの量 (g) の比較 (1人1日あたり)

災害時における浄化槽の使用について

大きな地震や床下浸水以上の浸水が起きた際、浄化槽を使用できなくなることがあります。災害が起きた場合には、環境省作成のチェックシートをもとに、浄化槽の状況を確認してください。確認できなかったり、チェックに該当することがあった場合は、保守点検業者に連絡してください。



徳島市の合併処理浄化槽に関する情報はこちら▶

徳島市内を流れる河川と水質

徳島市は四国最大の一級河川・吉野川の沖積平野に発達した都市です。大小 134 本の河川が流れ、福島、寺島、出来島など「島」のつく地名も多く残されています。この豊かな水に支えられ、徳島市は発展してきました。

しかし、吉野川や勝浦川、鮎喰川など良質な水質の河川がある一方で、一部の中小河川では、流域の住宅から流れ込む生活排水などの影響により汚濁が見られ、油膜の発生や酸欠による魚のへい死などが報告されています。



河川で死んだ魚 (徳島市)

よみがえった新町川

「水の都・徳島」のシンボルとなった新町川も、昭和40年頃には工場や家庭からの排水の影響で汚染が進み、魚が住めない「死の川」と言われていました。

その後、工場排水の規制や下水道整備、吉野川の水を導水する新町川浄化ポンプ場の設置などにより、水質は大きく改善され、新町橋付近でも多くの魚を見ることができるようになりました。

■ 新町川(新町橋)のBOD*年平均値 (徳島市環境保全課分析値)



※BOD (生物化学的酸素要求量)：水の汚れを表す指標。数値が大きいほど水が汚れている。一般的にコイやフナなどがすむためには5mg/L以下の水質が必要といわれています。

川を汚す 私たちの生活排水



川や海に流れ込む水には、雨水や工場、農業・畜産などからの排水のほか、私たちの暮らしからの生活排水があります。生活排水に含まれる汚れはBOD(生物化学的酸素要求量)の量で1人1日約40gといわれており、貴重な水を汚す大きな原因のひとつとなっています。

生活排水とは



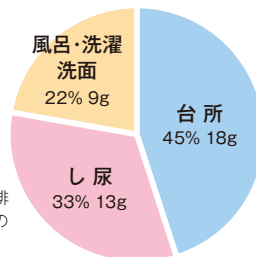
台所・風呂・洗濯などの生活雑排水とトイレからの排水を合わせたものです

キッチンからの排水がいちばん汚れている

生活排水に含まれる汚れのうち、発生源別では、台所の割合が最も多く、45%を占めています。これは台所からの排水に、調味料や油脂類などの有機物が多く含まれているからです。

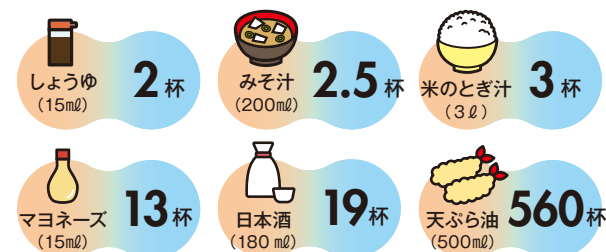
下水道や合併処理浄化槽などの生活排水処理施設が整備されていない場合、これらの水が直接放流されて、近くの水環境に悪影響を与えることとなります。

1人が1日あたりに排出する汚れ(40g)の発生源の割合▶



「少しの汚れ」をキレイにするのは大変!

下図は、食品を流した場合、魚が息できる水質にするために浴槽(1杯300ℓ)何杯分の水が必要か示したものです。わずかな量でも、みんなが毎日流すと大変な量の汚れとなります。



川を守る 私たち一人ひとりにできること



残った油は新聞紙や古布などにしみこませ燃えるゴミに。ペットボトルに入れた食用油は、市のエコステーションに持ち込む。



三角コーナーと水切り袋を利用し、野菜くずや食べ残しを直接流さないようにする。



浴槽の残り湯は洗濯に利用する。(水道水より温度が高いと汚れ落ちが良くなる)



排水溝の髪の毛などはこまめに取り除く。



食器や鍋の汚れは、古布やゴムべらなどで拭き取ってから流す。



シャンプー、リンスは適量を守べらなどで拭き取ってからの流す。



洗剤は目分量ではなく、計量スプーンで正しく計る。



洗剤を使って掃除する回数を減らすよう、使用後にこまめに掃除する。



TOPICS

市民団体による河川を守る活動

新町川と助任川に囲まれた周囲6kmの中州は「ひょうたん島」の愛称で親しまれています。周遊船で約30分かけて一巡する「ひょうたん島クルーズ」や徳島の特産品である良質な青石を使った護岸装飾のほか、県産のこだわりの野菜や食材を新町川沿いのボードウォークで販売する産直市「とくしまマルシェ」などのイベントが開催されています。令和元年には豊かな河川環境を生かしたまちづくりが評価され、国土交通省の「かわまち大賞審査員特別賞」を受賞しました。

こうした、本市の水を活かしたまちづくりに、ともに取り組んできた NPO法人新町川を守る会は、平成2年に発足して以来、川の清掃、花植え、水辺のイベント開催などを積極的に行っており、市民の強い思いと行動力が川を大きく変えることに繋がりました。

